



南林間小だより

大和市南林間9-3-2

☎ 275-3141

2月号



2月になりました。2月4日が立春のため、「暦の上では春を迎えました」とよく言われますが、寒さはまだまだ厳しく、朝、布団から出るのがつらい毎日です。立春とは、季節を表す言葉の一つです。日本には、一年を四つに分けた「四季」があり、それをさらに六つずつに分けた「二十四節気」があります。立春は、その二十四節気の一つです。冬至や啓蟄などの、聞き覚えのある言葉が並んでいます。

そして、その二十四節気をさらに三つずつにわけた「七十二候」というものがあります。一年を約5日ごとに72に分け、季節の移り変わりをより繊細に感じられるように、動植物や天気などの様子を名前にしています。

立春からは、次の名前がつけられています。

東風解凍 【はるかぜこおりをとく】 (春の風が、川や湖の氷を解かし始める)

黄鶯睨睨 【うぐいすなく】 (うぐいすが、山里で鳴き始める)

魚上氷 【うおこおりをいずる】 (割れた氷の間から、魚が飛び跳ねる)

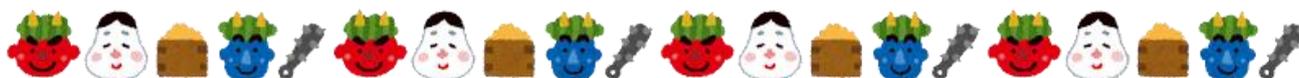
普段、自然に接することが少なくなりましたが、七十二候からは、幼いころに過ごした田舎の様子が懐かしく思い出されます。春の風やうぐいすが、この地域でも感じられ、春を運んできてくれることが待ち遠しいです。

一方、コロナウイルスは収まる気配がなく、学校では、基本対策のマスク、手洗い、換気などの対策を徹底して、子どもたちの安全に努めています。みなさんも、どうかお身体を大事になさってください。



今月も児童全員が笑顔いっぱい、楽しく過ごす学校づくりに努めてまいります。

(校長 板坂 和明)



まだまだ凜とした冬の空気を感じますが、暦の上では春。窓から差し込む太陽の光や木々の芽が「春はもう少しだよ。」と語りかけているようにも感じます。



2月3日は節分の日です。「節分」は、本来季節が移り変わる時という意味で、立春・立夏・立秋・立冬の前日を指します。その中で1年の始まりとされる春が特に大切にされていたことから、「節分」といえば春の節分を表すものとなりました。新しい春を迎える前に、季節の変わり目に入りやすいと考えられていた邪気を払って幸福を呼び込むために行われていた宮中祭祀が始まりだそうです。そして、災厄、疫病といった人に降りかかる悪いこと(邪気)の象徴である鬼を、邪気を追い払う力があるとされていた豆で滅ぼすことが豆まきを行うことの由来だそうです。

今年の節分では、新型コロナウイルス感染症という鬼を追い払いたいものです。さらに、自分さえよければよい鬼、好きなことだけやる鬼…、そんな心の中にある鬼も追い払いたいものです。みんなが健康に過ごせる世の中に、そして互いを思い合う優しい心、己を律し頑張る心を抱いて過ごす学校になることを願っています。

(教頭 小林 美紀)



南林間小だより

大和市南林間9-3-2

☎ 275-3141

2月号

